

January

2018

祈りと信仰の告白で奇跡をみる

イエスは答えて言われた。「神を信じなさい。まことに、あなたがたに告げます。だれでも、この山に向かって、『動いて、海に入れ』と言って、心の中で疑わず、ただ、自分の言ったとおりにになると信じるなら、そのとおりになります。だからあなたがたに言うのです。祈って求めるものは何でも、すでに受けたと信じなさい。そうすれば、そのとおりになります。

(マルコの福音書 11章 22節～24節)

代表

エルサレム杉澤

皆様の尊いお祈りと献金を感謝致します。12月11日～14日で米国のデンバー、ニューヨーク(NY)、12月25日～28日で米国のロス、サンディエゴにアメリカチームが遣わされました。トランプ米大統領の「エルサレムはイスラエルの首都」とする認定宣言の波紋が世界に広がる中、霊的に重要な意味合いを持つチームとして派遣されました。

デンバーにチームが到着早々、聖会中にホテルでボヤ騒ぎがあり、一時は騒然となりました。また、テレビニュースで次に向かうNYの聖会会場の目と鼻の先のマンハッタン中心部で単独犯テロによる爆発事件を報道していました。2016年7月のパトモスチームで遭遇したトルコの軍事クーデター騒乱時に主に語られた時と同様、時代が大きく変わったことを改めて認識させられました。デンバー聖会はインターネットで全世界へ生中継で映像が配信されました。聖会には普段は来られていない方々の参加があったり、次のNY聖会ではノンクリスチャンの参加があったりし、次の段階の働きに入ったことを感じました。

ロスでは12月25日がクリスマスデイ(ホリデイシーズン中)ということもあり、聖会会場が見つからない中で先回のチーム派遣と同様、20世紀初頭に起こったアズサ街リバイバルの発祥の場所、「ボニーブリアハウス」が会場となったことに特別な主の導きを覚えました。次のオレンジ郡の家庭集会では参加者数ゼロの覚悟をしていましたが、30名以上の参加者がありました。明らかに全米の働きが拡大する段階に入るチーム派遣となりました。

サンディエゴからサンフランシスコ経由の帰国便で大幅な遅れから乗り継ぎ不可能な状況でしたが、徹底して感謝し祈り、信仰告白するなかで奇跡が起きました。待っているはずのない乗り継ぎ便が待っていました。奇跡を伴う印象深いチーム派遣となりました。主に聞き従う時、みことばに伴うしるしをもって、宣教の働きを全うさせてくださるのです。



写真右：オレンジカウンティ郡(アメリカ)、家庭集会でメッセージするパウロ秋元牧師(右)